

経済面からみた年金受給世帯の生活実態 (II)

高山 憲之
有田 富美子

二 高齢夫婦世帯 (つぎ)

6 消費支出とその内訳

つぎに高齢夫婦世帯の消費支出を調べる。まず年金と消費支出をクロスさせてみよう。

①年金階級別の消費支出

表210は高齢夫婦世帯全体について、年金階級別の消費支出月額の分布を調べたものである。年金が三六万円未満の世帯を除くと、一般に年金受給額が高くなるほど消費支出も大きくなる。ただし、年金額がほぼ同一であっても消費支出は世帯によってかなり違う。そのばら

つきぐあいは一般に年収のそれより若干小さい(表211と比較せよ。年金が二四〇万円以上では消費支出のばらつきの方が逆に大きい)ものの、決して無視しうるオーダーではない。

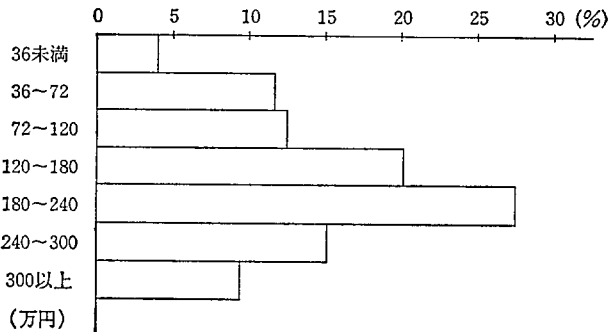
②年収階級別の消費支出

年収別に消費支出の分布を調べると、どうなるか。その集計結果が表212である。消費支出は年間収入が高くなるにつれて一般に大きくなる。ただし、ここでも各年間収入階級ごとの消費支出のばらつきは決して小さくない。なお表210と比較すると、消費支出のばらつきぐあいは年金のそれより一般に大きい(年間収入六〇〇万

表 2-10 年金階級別にみた消費支出月額の分布 (高齢夫婦世帯)

		年金階級 (万円)							全体
		36未満	36—72	72—120	120—180	180—240	240—300	300以上	
集計世帯数 抽出の世帯数 世帯構成 (%)		126	358	372	614	832	469	295	3066
		1,974	5,795	6,063	10,058	13,683	7,488	4,652	49,713
		4.0	11.7	12.2	20.2	27.5	15.1	9.4	100.0
消費支出階級 (万円)	10未満	32.1	39.4	33.0	19.5	8.6	2.8	1.2	16.7
	10—15	30.1	26.6	27.7	33.6	28.4	18.2	7.5	25.7
	15—20	20.2	15.7	13.0	20.7	28.1	26.4	18.5	21.8
	20—30	10.2	13.2	17.4	16.9	23.4	33.8	45.0	23.2
	30—45	5.5	5.2	7.4	5.9	8.1	13.9	19.8	9.1
	45以上	2.0	.	1.5	3.5	3.5	4.9	8.0	3.4
平均消費支出 (万円)		15.2	13.9	15.5	17.4	20.2	23.4	28.0	19.3
変動係数 (%)		70.4	58.1	62.2	64.6	64.2	52.4	64.4	66.3

図 2.9 高齢夫婦世帯の年金分布 (全体)

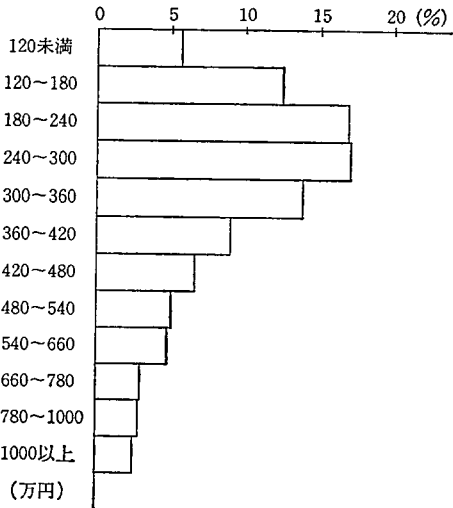


円以上は例外である)。
 平均消費支出月額は一
 九万円強であるが、最
 頻値は一〇万円未満の
 消費支出をしてい
 る世帯が全体の一七
 %いる一方、二五万
 円以上

表 2.11 年収階級別にみた消費支出月額の分布 (高齢夫婦世帯)

	年間収入階級 (万円)										全 体
	120未満	120—180	180—240	240—300	300—360	360—480	480—600	600—1000	1000以上		
集計世帯数	180	398	526	541	419	471	245	216	70		3,066
調整後世帯構成 (%)	2,832	6,152	8,421	8,470	6,838	7,886	3,951	3,928	1,235		49,713
	5.7	12.4	16.9	17.0	13.8	15.9	7.9	7.9	2.5		100.00
平均年齢 (歳)	71.51	70.12	68.23	67.46	67.57	67.04	66.33	66.18	67.87		67.92
平均年収 (万円)	91.59	152.06	208.84	266.25	326.50	411.65	527.88	747.98	1475.79		352.70
平均世帯年金 (万円)	69.40	112.68	156.82	192.40	202.59	217.66	234.13	220.15	190.64		180.38
平均世帯主年金 (万円)	54.71	98.18	142.96	176.49	184.25	193.31	199.02	188.91	160.96		160.30
平均貯蓄残高 (万円)	303.08	383.62	556.65	843.74	1,002.82	1,280.48	1,677.13	2,122.14	3,351.76		1029.83
平均消費支出 (万円)	9.41	11.53	14.46	17.65	19.69	22.69	27.29	29.94	43.66		19.35
消費支出 (万円)	10未満	65.1	45.8	22.0	10.2	4.5	4.3	5.3	1.7		16.7
	10—15	26.2	36.7	39.4	33.6	25.8	13.9	12.0	6.8		25.7
	15—20	4.0	14.3	24.3	29.5	32.3	27.1	13.1	15.9		21.8
	20—30	4.7	5.9	12.0	20.7	28.6	39.3	39.7	33.9		23.2
	30—45	.	1.3	1.6	4.5	7.5	12.1	20.1	29.7		9.1
45以上	.	.	0.7	1.5	1.3	3.2	9.6	11.9	25.0		3.4
変動係数 (%)	49.25	45.47	46.89	47.07	51.05	47.09	62.93	46.84	67.41		66.34

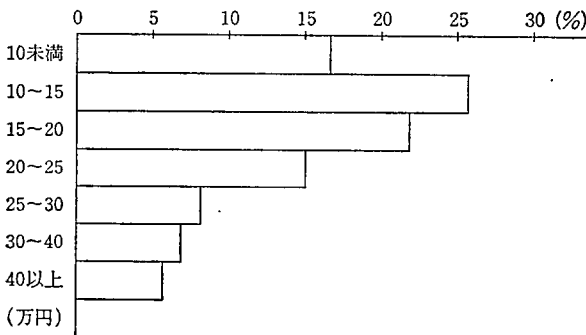
図 2.20 高齢夫婦世帯の年収分布 (全体)



の消費水準を享受している世帯が二〇%に及んでいる。視角的な理解に訴えるために、ここでは高齢夫婦全体についてその年金分布・年間収入分布および消費支出月額をそれぞれ図 2.9、図 2.10、図 2.11 として掲げておく。

年収と消費支出月額の関係を見ると、年収一二〇万円以上の所得階層では、年収の範囲内で支出をしている世帯の割合が圧倒的に多く、年金受給世帯の堅実な生活ぶ

図 2.11 高齢夫婦世帯における消費支出月額の分布 (全体)



りがうかがえる。調査期間中における耐久消費財の購入分を調整すれば、いわゆる赤字家計はもっと少なくなるだろう。ただし年間収入一二〇万円未満の世帯では年収を上回る消費をしている例も少なくない。貯蓄のとりくずし等でやりくりがなされているのではないだろうか。

(43) 経済面からみた年金受給世帯の生活実態 (II)

表 2.12 貯蓄残高階級別にみた消費支出月額分布 (高齢夫婦世帯)

		貯蓄残高階級 (万円)								全体
		0	1— 100	100— 300	300— 600	600— 1000	1000— 2000	2000— 3000	3000 以上	
世帯構成(%)		1.2	7.0	15.8	20.3	19.4	22.8	8.2	5.3	100.0
消費支出 (万円)	10 未 満	43.2	45.2	35.0	17.7	9.7	7.2	3.2	1.5	16.7
	10 — 15	26.9	34.0	31.2	35.1	29.2	18.3	10.9	5.3	25.8
	15 — 20	7.0	10.3	19.5	20.2	29.1	24.8	18.0	19.2	21.8
	20 — 30	23.0	8.8	12.0	20.9	21.7	32.1	37.4	30.1	23.2
	30 — 45	.	1.7	1.8	5.3	7.6	14.0	18.0	28.6	9.1
	45 以上	.	.	0.6	0.8	2.7	3.6	12.5	15.2	3.4
平均消費支出 (万円)		12.4	11.8	13.4	16.6	19.0	22.6	28.6	32.7	19.4
変動係数(%)		56.6	57.1	50.5	51.1	57.2	58.5	64.2	59.3	66.4

消費支出は貯蓄残高にも多かれ少なかれ左右される。そこで参考のために貯蓄残高階級別にみた消費支出月額の分布を表2.12として掲げておいた。

消費支出の水準は世帯主(男子)が就業している世帯の方が就業していない世帯より一般に高い。この点は前に述べたとおりである。世帯主が就業している世帯の方が就業していない世帯より年間収入も貯蓄残高も全体として高い。この点が影響していると考えてよいだろう。

③年齢別の消費支出

高齢者の場合、消費水準は一般に高齢になるほど低くなる。これまでいわれてきた。ここでは年収階級別にこの点を調べることにしたい。

表2.13はその集計結果である。それによると、年金受給世帯の消費水準は年をとるとともに全体としては低下している。低下の程度は月額20万円超の消費水準を享受している世帯において比較的大きいといえよう。ただし消費月額20万円未満の世帯においては、低下はそれほど大きくない。月々の消費支出が一五万円未満のところでは、年をとっても支出水準はほとんど変わらない

表 2.13 年齢別の平均消費水準 (高齢夫婦世帯, 万円)

年齢区分 (歳)	年間収入階級 (万円)									全体
	120未満	120—180	180—240	240—300	300—360	360—480	480—600	600—1000	1000以上	
60—64	11.0	11.5	14.9	18.9	19.9	24.7	29.9	32.4	58.0	22.4
65—69	9.9	12.1	14.8	17.9	21.0	21.1	27.0	28.0	34.7	19.3
70—74	9.1	10.7	14.2	16.6	17.6	22.0	23.2	31.5	37.3	17.4
75以上	8.5	11.9	13.0	15.1	19.0	22.5	22.5	22.1	31.6	15.5
65以上	9.1	11.5	14.3	17.1	19.5	21.6	25.3	28.2	35.2	17.9
合計	9.4	11.5	14.5	17.7	19.7	22.7	27.3	29.9	43.7	19.3

という世帯の方
がむしろ多数派
であると推測で
きる。加齢にと
もなう消費水準
の低下という事
実は、したがっ
て消費水準の違
いに着目して読
みとる必要があ
ると思われる。

④消費支出内

訳

つぎに高齢夫
婦世帯における
消費支出の内訳
を調べてみよう。
表2.14による
と、高齢夫婦世

帯全体として消費支出のうち三割程度が食費である。ついで交際費やこづかい(さらにはハンドバッグ・アクセサリー・宝石等)を含む「その他」が二四%でつづき、さらに教養・娯楽(九%)、交通・通信(九%)、光熱・水道(八%)、住居(六%)、被服・履物(五%)、家具・家事用品(五%)の順になっている。

このうち消費水準が上昇するにつれて支出ウェイトが下がっていくのは食費と光熱・水道費のみである。したがって世帯数で最も多い一〇万円台前半に位置している典型的な世帯では食費や光熱・水道費のウェイトが平均的構成比よりも若干ながら高くなっている。

7 貯蓄残高とその内訳

消費支出から貯蓄残高へ話を移そう。まず年金階級別の貯蓄分布を調べることにする。

①年金階級別の貯蓄分布

表2.15は年金階級別の平均貯蓄残高を示したものである。もとより各階級ごとの貯蓄分布はばらつきがきわめて大きい。したがって平均値のみで語ることは適切で

表 2.14 消費支出の内訳 (高齢夫婦世帯)

世帯構成比 (%)	消費階級 (万円)							全 体
	10未満	10 — 15	15 — 20	20 — 30	30 — 45	45以上		
	平均年齢 (歳)	69.72	68.77	67.58	66.86	66.67	65.45	
平均年間収入 (万円)	192.43	263.94	332.86	431.04	585.04	783.00	352.70	
平均年間金額 (万円)	112.46	159.85	191.30	215.62	223.63	243.02	180.38	
平均貯蓄残高 (万円)	426.44	674.81	1,044.48	1,335.96	1,859.47	2,271.66	1,029.83	
平均消費支出月額 (万円)	7.58	12.53	17.27	24.01	36.30	64.85	19.35	
支出構成 (%)	食料	42.6	35.1	29.9	24.2	18.4	14.5	30.5
	住居	3.5	5.4	5.3	7.3	8.2	9.0	5.9
	熱・水	11.9	9.3	7.6	6.1	4.5	3.0	8.0
	家具・家事用品	3.6	4.4	5.1	5.2	7.0	4.3	4.8
	被服・靴・通	3.2	4.3	5.3	6.3	7.8	8.2	5.2
	保健・通	3.6	3.7	4.0	4.4	3.0	2.5	3.8
	交通	8.1	8.0	8.7	9.4	8.7	10.4	8.6
	教育	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	娯楽	6.3	7.4	9.3	11.0	12.1	13.3	9.1
	その他	17.2	22.4	24.9	26.0	30.4	34.8	24.1

表 2.15 年齢区分別の平均貯蓄残高 (万円)

世帯 区分	年 齢 区 分 (歳)	年金階級 (万円)							全 体
		36 未満	36— 72	72— 120	120— 180	180— 240	240— 300	300 以上	
世帯主 就業	合 計	744.1	654.3	871.5	1,127.9	1,207.6	1,786.9	2,039.9	1,120.3
	60—64	801.8	764.1	710.4	1,205.3	1,166.8	2,131.8	1,905.0	1,143.3
	65—69	782.3	593.1	1,048.4	1,171.2	1,163.5	1,745.4	1,459.8	1,111.5
	70—74	367.5	584.1	801.2	883.5	1,343.6	1,490.5	3,165.4	1,089.8
	75以上	113.3	645.1	804.9	1,249.7	1,355.2	1,402.4	1,973.7	1,120.4
夫婦 ともに 非就業	合 計	189.1	519.3	447.0	616.1	890.3	1,217.0	1,725.5	948.9
	60—64	141.7	1,112.7	554.2	612.9	983.2	1,229.5	1,809.0	1,077.3
	65—69	117.0	381.3	458.6	503.1	895.2	1,257.7	2,169.3	1,018.5
	70—74	128.2	838.1	502.7	733.7	747.4	1,134.0	1,387.5	876.0
	75以上	363.6	325.2	364.9	617.3	883.3	1,268.4	1,263.5	769.3

はないが、ひとつの目安をとりあえずつけておこう。表によると、世帯主が就業している世帯の平均残高は加齢とともに低下していない。他方、夫婦ともに就業していない世帯のそれは加齢とともに減少している。

世帯主が就業している世帯においては、中・高年金階層において貯蓄残高は年とともに増加する傾向が一般に認められる。他方、低年金階層では加齢とともに貯蓄残高は減少しているようである。このふたつの相反する動きを前提におくと、所得分布の形によっては加齢とともに貯蓄残高が全体として減少することも増加することもありうる。右に述べた観察事実は、たまたまふたつの動きが相殺しあっている状況にあることを示している。

なお使用データはクロスセクション・データであり、コーホート・データではない。この点を念のため断っておく。

表2.15のは年金受給額階別にみた貯蓄残高の分布(縦に加えると世帯数の構成比が100になる)である。非就業世帯の貯蓄残高は世帯主就業世帯のそれより低い。また年金受給額が高くなるにつれて一般に貯蓄額も多くなる。ただし年金受給額がほぼ同一の世帯であっても貯

表 2.16 年金階級別にみた貯蓄残高の分布(高齢夫婦世帯)

世帯区分	貯蓄残高	年金階級(万円)										全体		
		36未満	36—72	72—120	120—100	180—240	240—300	300以上						
世帯主職業	集計世帯数	106	265	251	268	314	158	98	1460					
	貯蓄残高階級(万円)	0—100	1.3	0.7	0.6	0.3	0.8	0.6	0.6	0.6				
	1—100	9.4	14.0	9.4	3.7	3.6	3.6	1.7	6.8					
	100—300	29.7	26.3	18.7	19.0	7.8	3.6	4.7	16.0					
	300—600	24.9	22.2	23.1	14.5	18.5	11.7	5.7	18.1					
	600—1,000	17.8	16.8	19.1	27.0	22.7	15.1	13.4	20.1					
	1,000—2,000	6.8	16.7	19.6	21.4	32.0	31.9	29.6	23.2					
	2,000—3,000	5.7	1.2	4.0	8.1	7.8	21.6	28.6	8.7					
	3,000以上	4.3	2.2	5.4	5.9	6.8	12.0	16.1	6.6					
	平均貯蓄残高(万円)	744.13	654.33	871.51	1,127.92	1,207.55	1,786.91	2,059.92	1,120.30					
変動係数(%)	147.11	126.38	117.92	124.18	91.09	126.30	72.65	122.65						
夫婦ともに非就業	集計世帯数	13	82	98	282	452	277	180	1384					
	貯蓄残高階級(万円)	0—100	13.0	10.6	2.1	3.2	1.2	0.4	2.0					
	1—100	41.3	11.7	26.1	11.7	3.8	2.0	1.8	7.2					
	100—300	17.4	28.0	22.6	22.4	14.9	6.5	8.7	15.2					
	300—600	28.3	23.1	24.2	28.4	24.1	18.0	13.4	22.3					
	600—1,000	.	9.4	9.8	14.2	23.0	22.2	16.0	18.2					
	1,000—2,000	.	12.2	12.7	15.8	24.3	35.3	28.3	23.5					
	2,000—3,000	.	3.8	1.9	3.3	7.0	11.5	13.6	7.4					
	3,000以上	.	1.2	0.7	0.9	0.9	1.8	4.1	4.1					
	平均貯蓄残高(万円)	180.09	519.27	447.01	616.10	890.31	1,216.97	1,725.48	948.86					
変動係数(%)	92.31	130.02	121.06	106.45	85.28	80.27	86.07	102.95						

表 2.17 貯蓄残高の分布とその内訳 (高齢夫婦世帯)

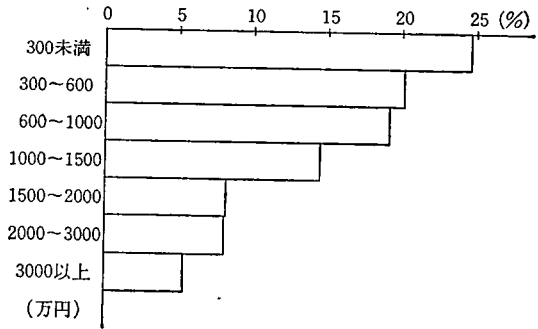
	貯蓄残高階級 (万円)							全 体	
	0	1— 100	100— 300	300— 600	600— 1,000	1,000— 2,000	2,000— 3,000 以上		
集計世帯数	34	224	515	638	592	669	234	137	3043
抽出率調整後の世帯数	614	3,477	7,806	10,008	9,557	11,244	4,042	2,603	49,351
世帯規模 (%)	1.2	7.0	15.8	20.3	19.4	22.8	8.2	5.3	100.0
平均年齢 (歳)	70.95	68.95	68.60	68.07	67.65	67.45	66.87	67.68	67.91
平均年金 (万円)	126.09	121.28	138.69	162.12	184.00	205.80	241.47	245.79	180.19
平均消費支出 (万円)	12.41	11.81	13.41	16.55	19.04	22.55	28.58	32.71	19.36
利子・配当 (夫, 万円)	120.00	5.36	7.72	16.54	28.58	46.43	68.54	120.77	46.52
同上 (妻, 万円)	.	.	3.09	10.18	14.46	23.88	39.59	58.60	31.19
平均貯蓄残高 (万円)	0.00	53.26	193.77	438.84	771.66	1,402.38	2,401.47	4,565.39	1,029.83
項目別保有率 (%)	①	27.5	50.1	62.6	74.4	81.6	91.1	90.4	67.8
	②	36.1	42.8	44.8	50.2	52.3	58.2	54.3	47.7
	③	30.8	67.0	82.4	84.5	86.3	86.4	93.8	77.5
	④	60.7	69.4	77.7	77.0	83.3	80.0	88.4	76.1
	⑤	42.2	58.2	64.3	75.1	76.3	79.0	76.4	67.6
	⑥	0.3	3.8	11.1	22.0	41.3	53.0	60.6	24.1
	⑦	0.7	3.0	7.6	16.2	34.8	53.6	64.6	20.9
	⑧	.	3.5	6.2	13.6	29.3	56.1	60.4	18.9
	⑨	1.8	3.4	3.0	3.9	7.9	9.6	10.6	5.2
	平均残高	26.22	76.16	144.88	237.30	365.63	461.87	650.00	284.06
保有者のみ	①	23.52	37.94	35.75	43.39	50.64	60.45	81.06	45.88
	②	30.60	85.85	205.51	315.53	479.36	746.28	1,114.19	384.25
	③	20.54	42.51	53.54	68.53	99.13	117.73	194.34	78.54
	④	35.79	77.59	128.65	171.34	206.93	260.13	473.13	180.01
	⑤

(49) 経済面からみた年金受給世帯の生活実態 (II)

	(万円)										
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
平均的な残高構成 (%)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
非保有者を含む	7.22	38.18	90.68	176.54	298.38	420.85	587.82	192.58	21.87	297.93	59.80
	8.48	16.24	16.03	21.79	26.48	35.19	44.00	21.87	297.93	59.80	121.77
	9.42	57.53	169.43	266.64	413.57	645.10	1,044.85	130.41	97.09	130.41	130.41
	12.47	29.52	41.62	52.79	82.58	94.17	171.87	130.41	97.09	130.41	130.41
	15.10	45.15	82.72	128.67	157.90	205.62	361.34	130.41	97.09	130.41	130.41
	0.11	2.45	21.50	62.79	206.24	365.66	693.03	130.41	97.09	130.41	130.41
	0.07	1.20	8.24	31.14	128.91	322.39	656.48	130.41	97.09	130.41	130.41
	0.00	1.92	5.81	26.31	74.28	277.97	963.51	130.41	97.09	130.41	130.41
	0.00	0.38	1.58	2.82	5.01	14.04	34.52	42.50	10.09	10.09	10.09
	13.6	19.7	20.7	22.9	21.3	17.5	12.9	18.7	2.1	2.1	2.1
	15.9	8.4	3.7	2.8	1.9	1.5	1.0	2.1	2.1	2.1	2.1
	17.7	29.7	38.6	34.6	29.5	26.9	22.9	28.9	2.1	2.1	2.1
	23.0	15.2	9.5	6.8	5.9	3.9	3.8	5.8	2.1	2.1	2.1
	28.4	23.3	18.8	16.7	11.3	8.6	7.9	11.8	2.1	2.1	2.1
	0.2	1.3	4.9	8.1	14.7	15.2	15.2	12.7	2.1	2.1	2.1
	0.1	0.6	1.9	4.0	9.2	13.4	14.4	9.5	2.1	2.1	2.1
	0.0	1.0	1.3	3.4	5.3	11.6	21.1	9.4	2.1	2.1	2.1
	0.7	0.8	0.6	0.6	1.0	1.4	0.9	1.0	2.1	2.1	2.1

注) ①郵便局・定期貯金、②郵便局・通帳貯金、③銀行等・定期預金、④銀行等・普通預金、⑤生命保険等・掛金累計、⑥貸付信託、⑦債券、⑧株式、⑨社内預金等。

図 2.12 高齢夫婦世帯における貯蓄残高の分布 (全体)



蓄残高にはかなりの違いが認められる。受給している年金額が低くなるほど一般に貯蓄残高のばらつきは大きくなるといえよう。また貯蓄分布のばらつきは世帯主が就業している世帯の方が夫婦ともに非就業の世帯より若干大きい。

②貯蓄残高の分布

貯蓄残高階級別にみた貯蓄ストックの分布は表2.11の最上段に示されている。平均は一〇〇〇万円あまりであるが、これはほぼ上位三分の一の水準に相当する。その中央値は六〇〇万円台にある。また五〇万円きざみで見ると、世帯数が最も多いところは一五〇〜二〇〇万円の水準である。平均値・中央値・最頻値の水準がこれだけ違くと、平均値だけでは話は通らない。貯蓄残高三〇〇万円未満の世帯がほぼ四世帯に一世帯の割合である一方、一五〇〇万円以上が五世帯に一世帯あまりの割合である。三〇〇〇万円以上が二〇世帯に一世帯、中には一億円超の金融資産を保有している世帯も若干ながら含まれている。貯蓄分布の理解を容易にするため図2.12の形で掲げておく。

③貯蓄残高の内訳

貯蓄残高の内訳は表2.12において保有率・項目別平均残高(保有者のみの平均および非保有者を含む平均)・平均的な残高構成の順で示されている。まず保有率をみると貯蓄残高が低いときは通貨性の預貯金・生命保険の

保有世帯が比較的多い。貯蓄残高が増大するにつれて、まず定期性の預貯金を保有する世帯がふえだし、ついで貸付信託・債券・株式の順で保有率が上昇していく。このような事実は、通説のとおりである。なお各項目とも保有率は貯蓄残高が大きくなるにつれて一般に上昇している。

つぎに保有者のみの項目別平均残高をみると、全体として貸付信託・金銭信託が最も多く五四〇万円強、ついで株式五一五万円弱、債券・公社債投信四七〇万円、銀行定期三三五万円、郵便局定期・定額二八五万円、社内預金等一九五万円、生命保険一八〇万円、の順になっている。

注目に値いすると思われるのは通貨性預貯金の残高が高齢者の場合かなり高水準（平均で郵便局四五万円強、銀行等八〇万円弱）にあるという点である。貯蓄残高が低い世帯でも月々の消費支出の二〜三倍に相当する通貨性の預貯金を保有している。このような事実はさらに究明する必要があるが、ここではこれ以上とりあげない。

平均的な貯蓄残高の構成は、金額（万円）とその構成割合（%）のふたつで示されている。前者は非保有者を含む項目別の平均残高であり、後者はその残高が貯蓄ス

トック全体に占める割合である。貯蓄ストックが低い段階では生命保険や通貨性預貯金の形で保有するのが一般であるが、ストックが大きくなるにしたがって、定期性預貯金の保有額がふえ、ついで貸付信託等・債券の保有額もふくらんでいく。株式は貯蓄残高一〇〇〇万円以上でポブユラーになる。貯蓄残高に占める割合は全体としてみると、銀行定期が三〇%弱、郵便局定期・定額二〇%弱、貸付信託等一三%、生命保険一二%、債券等一〇%、株式九%になっている。ただし貯蓄残高が違うとその構成は随分ちがうので注意しなければならない。通貨性預貯金や生命保険のウェイトは貯蓄ストックが大きくなるとともに低下する。他方、定期性預貯金のウェイトは逆V字型の変化を示している。貸付信託等・債券・株式のウェイトは貯蓄ストックが増大するとともに上昇する。

表217には調査票に計上されていた利子・配当所得（年額）も掲げておいた。参照をこいたい。

三 単身者世帯

六〇歳以上で年金を受給している単身者世帯の暮らし

ぶりを本節では調べる。

1 世帯の特性

表3-1は単身者の世帯数である。サンプルの総数は八一〇、男子一二一、女子六八九であり、女子が八五%の割合になっている。このように高齢で年金を受給している単身者は女子が圧倒的に多い。全国ベースではほぼ一二六万人(うち女子が一〇七万人)の母集団になっていると推計される。

六〇歳以上の単身者で年金を受給している者の割合は八五%である。年金受給者比率は加齢にもなって上昇している。

年齢区分別にみると、男子受給者は七五歳以上が四割弱である。七〇歳以上が六〇%となっており、通常の構成とちがう。他方、女子は六〇歳代が六〇%を占め、加齢とともに世帯ウェイトは低下している。

持家に住んでいる世帯は六五%にとどまり、借家・借間住いの者が少なくない。男子受給者の四割強、女子受給者の三分の一が借家・借間住いである。

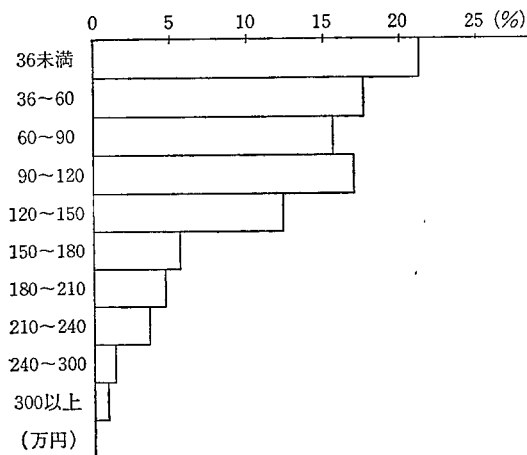
男子受給者の就業率は二一%、女子受給者のそれは二

六%にとどまっており、就業していない者の割合が圧倒的に多い。女子の方が就業率は若干高い。なお加齢にもなって一般に就業率は低下している。

表 3.1 単身者の世帯数 (60歳以上, 年金受給者)

	年齢区分 (歳)	集計世 帯数	抽出率調整後の 世帯数(A)	Aの構成 (%)	(参考)年金受給 世帯の割合(%)
全 体	合 計	810	35941	100.0	85.3
	60—64	223	9833	27.5	76.8
	65—69	233	10685	29.7	86.3
	70—74	191	8104	22.5	88.8
	75以上	163	7269	20.2	93.8
男 子	合 計	121	5398	100.0	83.2
	60—64	23	956	17.6	72.2
	65—69	28	1169	21.7	77.0
	70—74	28	1177	21.8	84.1
	75以上	42	2096	38.8	93.4
女 子	合 計	689	30543	100.0	85.7
	60—64	200	8927	29.2	77.4
	65—69	205	9516	31.2	87.6
	70—74	163	6927	22.7	89.6
	75以上	121	5173	16.9	94.0

図 3.1 単身世帯の年金分布 (全体)

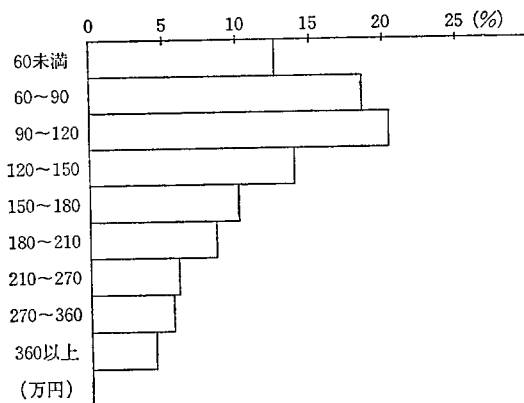


男子受給者の約半分が三大都市圏に住んでいる一方、女子受給者で三大都市圏に住んでいる者は三八%である。

2 基本的な分布図

六〇歳以上で年金を受給している単身者の暮らしぶりを分布図で表わしておこう。ここではサンプル全体につ

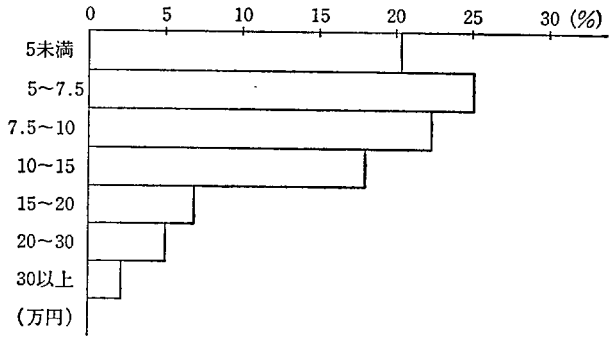
図 3.2 単身世帯の年収分布 (全体)



いて図示することにする。

図 3.1 は単身者全体の年金分布である。平均は九一万円、中央値は八〇万円、最頻値三〇万円である。三六万円 (月額三万円) 未満の者が二・二%いる一方で、二〇万以上が二八・三%、一五〇万円以上一六・一%、二四〇万円以上が二・一%、三〇〇万円以上が〇・八%とな

図 3.3 単身者世帯の消費支出月額 (全体)



っている。変動係数の値は六八%である。

つぎに年間収入分布はどうなっているか。図3.2によると、平均値一四五万円、中央値一一七万円、最頻値一〇〇万円である。年収六〇万円未満の者が八分の一いる

一方、一八〇万円以上が四分の一、二四〇万円以上が一
二%、三〇〇万円以上七%、三六〇万円以上が四・四%、
五〇〇万円以上一・八%となっている。平均年収は上位
三六%の水準に相当する。変動係数の値は七四%で、年
金分布のそれより若干大きい。

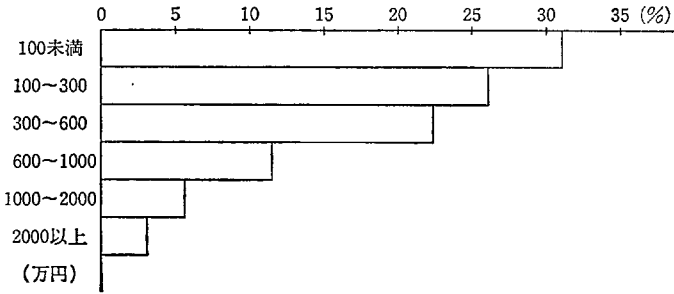
図3.3は消費支出月額の分布を調べたものである。平
均値九・八万円、中央値七・八万円、最頻値は一万円きざ
みで見ると八万円前後となっている。平均消費額はほぼ
上位三分の一の水準である。五万円未満が五分の一いる
一方、一五万円以上が一四%、二〇万円以上七・二%、三
〇万円以上二・二%、四〇万円以上一・二%となっている。
変動係数は八二%で、年収のそれよりさらに大きい。

貯蓄残高の分布は図3.4に示されている。平均値は四
〇九万円、中央値二一五万円、最頻値は五〇万円きざみ
で見ると五〇万円前後のところにある。残高がゼロの者
が五・二%いる一方、六〇〇万円以上が二〇%あまり、
一〇〇〇万円以上が九%、一五〇〇万円以上四・六%、
二〇〇〇万円以上三・二%、三〇〇〇万円以上一・一%、
五〇〇〇万円以上〇・一六%となっている。変動係数の
値は一五・一%で、消費支出のそれよりいっそう大きい。

六〇歳以上で年金を受給している単身者のうち年金し

3 年金が年収に占める割合

図 3.4 単身者世帯の貯蓄残高 (全世界帯)



か収入のない者の割合は全体として三一・八%である。六五歳以上に限定すると、その割合は三三%となっている(表3.2参照)。

年金・年収比率は人によって違いが小さくない。その比率が五〇%以上の単身者は全体として七〇%に達している。年金・年収比率は平均で六二・七%である。この比率は一般に年金が高くなるにつれて上昇している(後掲の表3.7参照)。

なお年金・年収比率

表 3.2 年金・年収比率 (単身者: 全体)

	年齢区分 (歳)	世帯数		年金・年収比率 (%)					
		集計数	抽出率調整後	20未満	20-30	30-50	50-80	80-100	100
全体	60-64	223	9883	8.6	10.4	14.9	24.3	13.2	28.6
	65以上	587	26053	6.5	4.9	16.6	23.0	15.9	33.0
	合計	810	35941	7.1	6.5	16.1	23.4	15.2	31.8
男子	合計	121	5398	6.5	8.1	13.5	23.6	12.8	35.4
女子	合計	689	30543	7.2	6.2	16.5	23.3	15.6	31.1

表 3.3 年金・年収比率が高い単身世帯の年金分布 (60歳以上, %)

年金・年収比率	世帯数		年金階級 (万円)						平均年金 (万円)
	集計数	抽出率調整後	36未満	36—60	60—90	90—120	120—180	180以上	
80%以上 100%未満	134	5,460	4.4	3.6	16.9	23.6	33.9	17.5	131.0
100%	256	11,422	7.3	12.9	18.9	22.5	25.5	12.9	108.1

は男女別にも集計しておいた。

年金・年収比率が八〇%以上の単身者をぬきだして、その年金分布を調べたのが表々である。年金しか収入のない単身者の平均年金額は一〇八万円であり、決して低いとはいえないのではないか。年金九〇万円以上が六一%に及んでいるからである。また年金が六〇万円に満たない者の割合は二〇%にとどまっている。つぎに年金・年収比率が八〇%以上一〇〇%未満の単身者をみると、平均年金額は一三一万円であり、それなりに高い。年額で九〇万円以上の者が七五%を占め

る一方、六〇万円未満は八%にすぎない。なお単身者全体としての平均年金額は既述のように九一万円、中央値八〇万円である。

これらの事実をみると、年金・年収比率の割合が比較的に高いグループは単身者においても比較的高額の年金を受給していることがわかる。

4 年金と就業の関係

年金受給額の多寡と就業率との間には一定の関係があるだろうか。この点を調べたのが表々である。まず六〇歳代前半層をみると、全体として就業率は三四%となっている。年金受給額階級別の就業率は一般にJ字型(左右は逆)であり、底は年金が九〇〜一二〇万の階層である。ただし年金三六万円未満の就業率は若干低い。これは年度の途中から年金を受給しはじめた者がこの階層に含まれているからであると考えてよいだろう。他方、六五歳以上の就業率は全体として二二・二%であり、加齢による就業率の低下がおこっている。なお六五歳以上では年金額が高くなっても就業率の反転は無視しうる程度にしか生じていない。

(57) 経済面からみた年金受給世帯の生活実態(Ⅱ)

表 3.4 単身者の就業率

年齢区分 (歳)	項 目	年金階級(万円)						全 体
		36未満	36—60	60—90	90—120	120—180	180以上	
60 64	集 計 世 帯 数	44	32	49	38	37	23	223
	抽 出 率 調 整 後	1,725	1,297	2,379	1,677	1,745	1,060	9,883
	就 業 率(%)	45.0	67.5	44.6	10.5	13.0	23.7	34.1
	賃 金 稼 得 者 比 率(%)	33.3	49.9	32.5	8.0	6.1	23.7	25.2
65 以 上	平 均 賃 金(万円)	108.3	112.9	99.5	82.6	31.8	281.5	119.6
	集 計 世 帯 数	139	112	78	93	106	59	587
	抽 出 率 調 整 後	5,900	5,042	3,276	4,442	4,680	2,718	26,058
	就 業 率(%)	24.8	33.6	17.1	18.3	20.0	11.5	22.2
	賃 金 稼 得 者 比 率(%)	8.2	7.6	4.7	3.2	6.3	7.1	6.3
	平 均 賃 金(万円)	141.5	155.5	98.2	113.4	239.4	99.0	150.9

賃金を稼いでいる者の割合は六〇歳代前半層では四人に一人、六五歳以上では一六人に一人であり、平均賃金(年額)はそれぞれ一二〇万円、一五〇万円あまりである。

5 年間収入とその内訳

単身者世帯全体における年金受給額階級別の年収分布は表3.5に示されている。一般に年金が高くなるにつれて年収もふえる。ただし各年金階級ごとの年収はばらつきが小さくない。とくに低額年金受給者における年収のばらつきが比較的大きい。

表3.5のは単身者のうち女子で就業していない者だけをとりにして同様の整理を試みたものである。女子で非就業の者の割合は全体の六二・七％に達しており、年金受給の単身者の過半数を占めている。非就業女子の平均年収は単身者全体のそれより若干低い一二三万円であり、また平均年金額は九四万円(単身者全体のそれとほとんど同じ)である。非就業女子の場合、年収分布の変動係数は六五％であり、年金のそれと違いがない。

就業している者と就業していない者を比較すると、前者の方が平均年収は高く平均年金額は逆に低い。また男

表 3-5 年金階級別の年収分布 (単身者: 全体)

		年金階級 (万円)						全体
		36未満	36—60	60—90	90—120	120—180	180以上	
集計世帯数		183	144	127	131	141	82	810
抽出率調整後		7,625	6,339	5,655	6,119	6,425	3,778	35,941
世帯構成(%)		21.2	17.6	15.7	17.0	17.9	10.5	100.0
年収 (万円)	60未満	33.4	31.6	12.7
	60—90	30.8	22.7	50.6	.	.	.	18.5
	90—120	15.9	19.4	23.1	58.0	.	.	20.3
	120—180	10.1	10.4	16.9	25.6	72.6	.	24.0
	180—240	8.1	10.6	3.9	4.2	17.5	44.1	12.7
	240以上	1.8	5.3	5.5	12.2	9.9	55.9	11.9
平均年金 (万円)		27.01	43.28	73.80	101.59	142.58	220.96	90.98
平均年収 (万円)		89.90	106.53	112.86	163.34	179.03	281.93	145.07
変動係数(年金, %)		23.67	14.30	12.00	6.95	9.97	16.93	67.81
変動係数(年収, %)		68.72	67.02	56.11	84.51	49.53	39.27	74.18

表 3-6 年金階級別の年収分布 (単身者: 非就業女子)

		年金階級 (万円)						全体
		36未満	36—60	60—90	90—120	120—180	180以上	
集計世帯数		113	69	84	98	96	53	513
抽出率調整後		4,598	3,284	3,671	4,210	4,348	2,423	22,534
世帯構成(%)		20.4	14.6	16.3	18.7	19.3	10.8	100.0
年収 (万円)	60未満	41.1	47.4	15.3
	60—90	40.0	26.8	64.5	.	.	.	22.6
	90—120	13.2	17.3	27.9	69.2	.	.	22.7
	120—180	4.3	4.4	6.9	23.8	80.6	.	22.6
	180—240	1.4	1.4	0.7	3.8	14.4	48.0	9.3
	240以上	.	2.7	.	3.2	5.0	52.0	7.6
平均年金 (万円)		27.71	44.49	73.09	101.32	141.29	221.96	94.10
平均年収 (万円)		66.70	77.44	88.15	127.76	160.65	270.76	123.24
変動係数(年金, %)		17.25	14.05	11.98	7.47	10.10	17.19	65.31
変動係数(年収, %)		46.96	59.25	26.33	56.24	25.87	30.62	64.93

(59) 経済面からみた年金受給世帯の生活実態(Ⅱ)

表 3.7 年収の構成(単身者:全体)

		年金階級(万円)						全体	
		36未満	36—60	60—90	90—120	120—180	180以上		
保有者比率 (%)	①	13.8	16.2	16.4	4.5	6.3	11.7	11.5	
	②	3.5	5.9	1.8	2.2	3.2	0.4	3.1	
	③	7.5	9.4	6.3	2.0	5.6	3.0	5.9	
	④	12.6	11.3	6.5	5.9	9.4	3.4	8.7	
	⑤	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	⑥	41.5	15.7	23.8	12.9	12.9	4.5	20.3	
	⑦	9.1	11.2	3.3	12.6	2.9	3.4	7.5	
	⑧	17.3	14.5	13.2	25.2	16.9	39.1	19.7	
	⑨	17.2	19.4	6.3	10.7	10.0	9.9	12.7	
	⑩	6.1	8.5	8.5	6.6	6.3	10.8	7.5	
平均所得 (万円)	保有者のみ	①	123.43	128.65	99.30	98.45	184.76	202.39	132.08
		②	16.75	31.44	14.52	14.78	24.45	30.00	22.90
		③	100.32	81.81	109.50	38.73	41.30	35.45	79.63
		④	20.42	31.87	26.59	17.35	33.78	20.34	25.99
		⑤	27.01	43.28	73.80	101.59	142.58	220.96	90.98
		⑥	40.77	32.38	28.80	25.52	37.79	33.78	35.26
		⑦	69.06	68.72	72.46	298.11	55.37	37.38	132.92
		⑧	19.00	37.61	17.70	36.63	50.47	70.73	40.72
		⑨	46.59	51.94	26.71	42.88	30.17	41.44	43.21
		⑩	10.21	11.35	7.67	5.85	7.80	8.10	8.65
平均的な所得構成 (%)	非保有者を含む	①	17.09	20.86	16.29	4.44	11.59	23.73	15.19
		②	0.59	1.85	0.27	0.32	0.78	0.12	0.70
		③	7.55	7.65	6.87	0.78	2.31	1.05	4.69
		④	2.58	3.61	1.74	1.02	3.19	0.69	2.27
		⑤	27.01	43.28	73.80	101.59	142.58	220.96	90.98
		⑥	16.91	5.09	6.85	3.30	4.89	1.51	7.16
		⑦	6.28	7.70	2.36	37.71	1.63	1.27	9.90
		⑧	3.28	5.44	2.33	9.21	8.55	27.63	8.02
		⑨	7.99	10.11	1.70	4.58	3.01	4.10	5.49
		⑩	0.62	0.96	0.65	0.39	0.49	0.87	0.65
平均的な所得構成 (%)	平均的な所得構成	①	19.0	19.6	14.4	2.7	6.5	8.4	10.5
		②	0.7	1.7	0.2	0.2	0.4	0.0	0.5
		③	8.4	7.2	6.1	0.5	1.3	0.4	3.2
		④	2.9	3.4	1.5	0.6	1.8	0.2	1.6
		⑤	30.0	40.6	65.4	62.2	79.6	78.4	62.7
		⑥	18.8	4.8	6.1	2.0	2.7	0.5	4.9
		⑦	7.0	7.2	2.1	23.1	0.9	0.4	6.8
		⑧	3.7	5.1	2.1	5.6	4.8	9.8	5.5
		⑨	8.9	9.5	1.5	2.8	1.7	1.5	3.8
		⑩	0.7	0.9	0.6	0.2	0.3	0.3	0.4

注) ①賃金所得, ②農林漁業所得, ③事業所得, ④内職等の所得, ⑤年金, ⑥仕送り, ⑦家賃・地代等, ⑧利子・配当, ⑨その他, ⑩現物消費。

子と女子を比較すると、男子の方が年金・年収ともに平均額は高い。

つぎに年収の内訳を調べてみよう。まず単身者全体について整理したのが表¹⁰である。上段の数字は所得項目ごとの保有率を示している。また中段の数字は所得項目別の平均額である。さらに下段の数字は平均的な所得構成を表している。

単身者のうち賃金収入を得ている者は一一・五％にすぎない。賃金の平均は年額で一三二万円である。また内職をしている者は全体として八・七％であり、その平均額は年額二六万円となっている。さらに仕送りを受けている者は低年金受給階層では少なくなく、全体として五人に一人の割合である(平均額は三五万円)。家賃・地代を収入としている者は全体の七・五％、平均額は一三三万円となっている(ただし金額で比較的多いのは七〇万円前後である)。利子・配当を計上している者は全体として二〇％たらずであるが、貯蓄保有率が全体として九五％に近いという事実を照らしあわせると、利子・配当についての数字は信頼性の点で問題視されてしかるべきだろう。計上した者のみの平均額をみると四一万円で

ある。平均貯蓄残高は四〇九万円であったので、計上した者は貯蓄ストックが相対的に高い者に偏っていると推測してよいだろう。

単身者世帯の年収構成は全体としてみると、六三％が年金が占めている。年金の年収に占めるウェイトは一般に年金が高くなるにつれて上昇する。賃金は全体として一〇％強の割合である。なお低年金受給世帯(六〇万円未満)では、年金は年収の三〇〜四〇％を占めるにすぎず、賃金(二〇％)や仕送りなどで収入をふやしている。

表¹⁰は同様の整理を非就労女子についてしたものである。就業していないので賃金を稼いでいる者はゼロに等しい。また家賃・地代を手に行っている者あるいは利子・配当を所得として計上している者の割合は単身者全体より低い。代わりに四人に一人が仕送りを受けている。とくに年金月額三万円未満の場合、仕送りを受けている者の割合は過半数を超え五七％に近い。年収の構成は年金に著しく偏っており、全体として七六％に達している。年金六〇万円未満の階層でも年金・年収比率は四〇〜六〇％弱になっており、年金依存度は低くない。年収のうち仕送りのウェイトが年金について大きく、低年金受給

(61) 経済面からみた年金受給世帯の生活実態 (II)

表 3-8 年収の内訳 (単身者, 非就業女子)

項目	年金階級 (万円)						全体		
	36未満	36—60	60—90	90—120	120—180	180以上			
保有者比率 (%)	①	2.3	0.9	0.7	.	.	3.8	1.1	
	②	0.6	1.4	1.6	1.6	1.8	.	1.2	
	③	
	④	12.6	11.8	6.0	7.5	12.2	3.5	9.4	
	⑤	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
	⑥	56.8	19.9	30.5	13.1	16.8	4.3	25.6	
	⑦	5.0	7.4	0.5	5.7	0.5	3.1	3.7	
	⑧	10.0	12.1	12.4	23.5	18.1	34.5	17.4	
	⑨	19.1	25.7	7.4	12.8	6.3	12.9	13.8	
	⑩	6.2	7.5	11.7	9.0	3.4	12.1	7.9	
平均額 (万円)	保有者のみ	①	64.44	28.00	80.00	.	.	89.67	70.74
		②	15.00	11.00	10.00	19.85	13.60	.	14.06
		③
		④	19.41	17.53	15.05	18.06	35.83	20.00	22.56
		⑤	27.71	44.49	73.09	101.32	141.29	221.96	94.10
	非保有者を含む	⑥	40.27	33.83	31.11	28.93	38.63	51.31	36.67
		⑦	23.51	44.16	54.00	141.11	18.00	15.08	63.34
		⑧	17.95	31.85	12.38	40.12	26.77	101.03	43.77
		⑨	44.09	60.83	17.48	23.16	49.65	45.06	43.29
		⑩	11.24	13.16	7.74	5.91	5.04	10.38	8.87
平均的な所得構成 (%)	①	1.49	0.26	0.54	0.00	0.00	3.44	0.80	
	②	0.09	0.15	0.16	0.31	0.25	0.00	0.17	
	③	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	④	2.44	2.07	0.90	1.36	4.38	0.70	2.12	
	⑤	27.71	44.49	73.09	101.32	141.29	221.96	94.10	
	⑥	22.86	6.72	9.47	3.79	6.50	2.22	9.39	
	⑦	1.19	3.25	0.26	8.04	0.10	0.46	2.33	
	⑧	1.80	3.87	1.53	9.44	4.85	34.90	7.63	
	⑨	8.44	15.63	1.29	2.96	3.11	5.82	5.99	
	⑩	0.69	0.98	0.91	0.53	0.17	1.25	0.70	

注) ①~⑩は前表と同じである。

表 3.9 年金階級別にみた消費支出月額額の分布 (単身者: 全体)

		年金階級 (万円)						全体
		36未満	36—60	60—90	90—120	120—180	180以上	
集 計 世 帯 数		183	144	127	131	143	82	810
世 帯 構 成 (%)		21.2	17.6	15.7	17.0	17.9	10.5	100.0
消 費 階 級 (万円)	5 未 満	35.3	28.1	24.5	8.6	13.2	3.0	20.4
	5—7.5	26.9	28.6	33.8	23.9	21.8	10.0	25.1
	7.5—10	20.3	13.6	24.2	31.1	25.7	18.9	22.4
	10—15	11.7	20.9	12.9	18.2	23.1	24.5	18.0
	15—20	3.0	5.1	2.6	4.2	10.1	22.8	6.9
	20 以 上	2.7	3.7	1.9	13.9	6.0	20.7	7.2
平均消費支出(万円)		7.17	8.14	7.64	11.40	10.38	17.78	9.82
変 動 係 数 (%)		62.18	61.65	57.13	76.51	62.72	82.87	82.00

階層では仕送り依存度が三四%にも及んでいる。
なお就業している場合、年金・年収比率は全体よりかなり低く、平均で男子三二%、女子三七%である。

6 消費支出とその内訳

六〇歳以上で年金を受給している単身者の消費支出月額をつぎに調べよう。

① 年金階級別の消費支出

表3.9は単身者全体について年金階級ごとに消費支出の分布を整理したものである。年金額が高くなるほど消費水準も高くなると一応いえるものの、例外も少なくない。年金受給額が同じであっても消費支出の水準は人によってかなり異なる。

② 年収階級別の消費支出

他方、年収階級別にみた消費支出の分布は表3.10に示されている。消費支出は一般に年収がふえるとともに増大する傾向がある。ただし、年収が同一階級にあっても消費のばらつきぐあいは小さくない。

(63) 経済面からみた年金受給世帯の生活実態(Ⅱ)

表 3.10 年收階級別にみた消費支出月額額の分布(単身者:全体)

		年間収入階級(万円)						全体
		60未満	60—90	90—120	120—180	180—240	240以上	
集計世帯数		107	162	169	190	99	83	810
抽出率調整後		4553	6644	7297	8614	4561	4272	35941
世帯構成(%)		12.7	18.5	20.3	24.0	12.7	11.9	100.0
平均年齢(歳)		72	70	69	68	67	69	69
平均年収(万円)		44	75	104	146	203	370	145
平均年金(万円)		36	50	75	108	127	168	91
平均貯蓄残高(万円)		138	175	244	400	681	1,146	409
平均消費支出(万円)		5.73	6.43	8.98	9.35	12.14	19.38	9.82
消費支出(万円)	5未満	47.5	35.9	16.4	16.0	2.8	2.3	20.4
	5—7.5	25.4	35.1	28.4	25.1	22.2	6.9	25.1
	7.5—10	17.1	17.4	29.3	31.6	15.9	12.5	22.4
	10—15	7.7	10.9	17.9	14.3	40.5	23.6	18.0
	15—20	2.2	.	4.9	7.2	9.0	22.8	6.9
	20以上	.	0.7	3.1	5.8	9.7	31.8	7.2
変動係数(%)		54.05	50.73	75.88	57.55	58.45	71.75	82.00

全体として年収の範囲内に消費支出を抑えている者が多数派であるが、年収一二〇万円未満の階層では年収を上回る消費をしている者も少なくない。とくに年収六〇万円未満ではいわゆる赤字家計が半数を超えている公算が大きい。

なお男女別に消費支出月額額をみると、平均は男子一〇・二万円、女子九・八万円である。中央値は男子八・二万円、女子七・七万円となっている。男子の消費支出分布は一点集中型に近く八万円台の前半に最頻値がある。女子の最頻値は五万円台の後半にあるが、分布は女子の方がばらつきが大きい(変動係数の値は男子が七〇%、女子が八四%である)。また就業している者と就業していない者を比較すると、前者の方が消費水準は高い。

③ 年齢別の消費支出

表3.11は年齢を四区分して、単身者の平均消費月額を年収階級別に調べたものである。年金受給者の消費水準はどの年収をとってみても一般に加齢とともにわずかながら低下している。ただし年収二四〇万円以

表 3.11 年齢別の消費水準 (単身者, 万円)

年齢区分 (歳)	年間収入階級 (万円)						全 体
	60未満	60—90	90—120	120—180	180—240	240以上	
60—64	5.9	6.5	9.0	10.2	11.7	18.0	10.4
65—69	7.0	6.9	9.1	8.1	11.9	16.6	9.6
70—74	5.3	6.5	10.3	9.4	11.6	14.8	9.2
75以上	5.0	5.7	7.2	9.8	16.5	30.2	10.1
65以上	5.7	6.4	9.0	9.0	12.4	20.0	9.6
合 計	5.7	6.4	9.0	9.4	12.1	19.4	9.8

表 3.12 消費支出の内訳 (単身者: 全体)

		消費階級 (万円)						全 体
		5未満	5—7.5	7.5—10	10—15	15—20	20以上	
世帯数	集 計 数	176	216	176	143	56	43	810
	抽出率調整後	7,346	9,029	8,055	6,473	2,465	2,573	35,941
	構成比 (%)	20.4	25.1	22.4	18.0	6.9	7.2	100.0
平均年齢 (歳)		70.62	69.14	69.17	67.95	67.52	68.63	69.09
平均年間収入 (万円)		87.82	118.79	129.39	171.68	222.20	308.95	145.07
平均年金額 (万円)		61.68	78.86	94.50	100.01	140.48	136.07	90.98
平均貯蓄残高 (万円)		156.83	312.15	343.58	535.07	699.47	1,184.21	409.47
平均消費支出月額 (万円)		3.65	6.17	8.54	12.23	16.88	31.47	9.82
支 出 構 成 (%)	食 料	42.87	34.66	31.31	23.11	18.61	12.55	30.82
	住 居	5.15	7.98	9.57	8.31	7.86	19.75	8.65
	光 熱・水道	13.56	9.99	9.33	7.17	5.65	4.36	9.36
	家具・家事用品	2.58	3.04	4.77	4.71	4.87	8.04	4.12
	被 服・履 物	3.83	3.79	5.63	6.55	10.14	5.72	5.28
	保 健・医 療	2.88	3.80	2.89	3.30	4.32	2.43	3.25
	交 通・通 信	8.12	7.74	7.76	8.32	8.46	7.23	7.94
	教 育	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	教 養・娯 楽	5.94	7.91	8.40	9.63	11.38	11.59	8.43
そ の 他	15.07	21.11	20.33	28.91	28.71	28.34	22.14	

(65) 経済面からみた年金受給世帯の生活実態 (II)

表 3.13 年齢別の平均貯蓄残高 (単身者女子, 万円)

		年齢区分 (歳)				全 体
		60—64	65—69	70—74	75以上	
集 計 世 帯 数		200	198	161	118	677
年 収 階 級 (万 円)	合 計	451.50	437.68	355.76	222.38	388.14
	60 未・満	94.23	128.25	129.46	81.34	109.16
	60—90	212.67	200.13	148.84	153.53	182.38
	90—120	243.44	366.30	139.12	168.23	242.89
	120—180	415.50	286.63	281.20	370.30	339.06
	180—240	543.82	654.64	882.06	1147.79	682.28
	240以上	1,285.10	1,459.68	1,349.99	316.89	1,253.11

表 3.14 年金階級別にみた貯蓄残高の分布 (単身者: 全体)

		年金階級 (万円)						全 体
		36未満	36—60	60—90	90—120	120—180	180以上	
集 計 世 帯 数		180	143	126	128	139	78	794
貯 蓄 残 高 (万 円)	0	9.4	11.0	2.6	4.7	.	.	5.2
	1—100	35.2	26.3	33.0	23.7	18.1	20.7	25.9
	100—300	27.2	32.7	28.5	23.0	27.4	10.8	26.1
	300—600	20.7	16.0	25.6	19.8	32.1	17.5	22.2
	600—1000	3.4	4.5	8.2	15.4	14.8	36.5	11.6
	1000—1500	1.5	3.9	2.1	3.0	5.7	14.7	4.3
	1500以上	2.6	5.6	.	10.4	2.0	9.7	4.6
平均貯蓄残高 (万円)		284.54	326.78	263.08	571.39	419.57	779.34	409.47
変 動 係 数 (%)		223.67	167.93	95.89	158.83	97.97	75.45	150.80

表 3.15 貯蓄残高の分布とその内訳 (単身者: 全体)

		貯蓄残高階級 (万円)							全 体	
		0	1— 100	100— 300	300— 600	600— 1000	1000— 1500	1500 以上		
集計世帯数		40	218	228	162	87	29	30	794	
抽出率調整後		1,836	9,066	9,157	7,781	4,082	1,503	1,628	35,051	
世帯構成比(%)		5.2	25.9	26.1	22.2	11.6	4.3	4.6	100.0	
平均年齢(歳)		73.55	69.47	68.99	67.73	69.17	68.25	68.10	69.02	
平均年金(万円)		49.59	72.37	78.78	93.61	136.76	132.05	107.67	89.26	
平均年取(万円)		65.14	104.47	116.26	147.97	190.54	232.97	354.77	142.29	
平均消費(万円)		6.17	7.40	8.35	9.71	11.87	13.26	18.60	9.39	
利子・配当 (万円)		.	3.02	7.74	16.12	22.77	64.33	85.72	33.80	
平均貯蓄(万円)		0.00	45.26	177.37	424.38	742.38	1,200.76	2,570.07	409.47	
項目別保有率 (%)	①	.	33.1	52.8	66.8	86.5	81.7	66.9	53.9	
	②	.	47.2	41.7	46.5	42.1	65.7	41.6	43.1	
	③	.	33.8	65.9	83.0	83.1	97.3	84.7	62.1	
	④	.	50.0	58.8	73.6	78.4	86.6	89.1	61.6	
	⑤	.	26.8	33.6	49.3	45.6	57.7	49.6	36.8	
	⑥	.	0.9	2.5	9.5	24.0	32.9	37.2	8.9	
	⑦	.	0.3	4.0	3.7	17.5	40.1	42.9	7.7	
	⑧	.	0.2	1.6	2.4	16.4	32.7	49.4	6.6	
	⑨	.	0.6	0.7	2.2	1.0	9.0	2.0	1.4	
平均残高 (万円)	保 有 者 の み	①	.	26.63	85.27	188.21	249.89	340.10	331.09	165.77
		②	.	22.25	37.13	57.42	39.55	56.54	86.80	41.54
		③	.	26.54	99.90	204.71	351.50	345.12	1,069.98	237.61
		④	.	19.89	39.15	52.31	66.45	98.01	66.22	48.01
		⑤	.	24.49	62.34	77.27	88.43	289.98	409.54	100.49
		⑥	.	26.95	92.54	170.73	298.26	269.17	578.81	295.63
		⑦	.	50.00	76.46	111.76	156.58	293.95	814.27	340.80
		⑧	.	10.00	74.27	78.56	143.03	233.08	1,167.77	507.46
		⑨	.	6.00	71.38	154.26	320.00	166.04	100.00	139.85
	非 保 有 者	①	0.00	8.82	45.06	125.63	216.22	277.87	221.34	89.31
		②	0.00	10.50	15.47	26.71	16.67	37.17	36.08	17.90
		③	0.00	8.96	65.82	169.85	292.00	335.70	906.12	147.66
		④	0.00	9.94	23.02	38.51	52.09	84.84	58.97	29.57
		⑤	0.00	6.57	20.96	38.10	40.36	167.28	203.26	36.93

(67) 経済面からみた年金受給世帯の生活実態(Ⅱ)

を含む	⑥	0.00	0.24	2.32	16.17	71.61	88.65	215.36	26.39	
	⑦	0.00	0.17	3.03	4.15	27.35	117.93	349.54	26.21	
	⑧	0.00	0.02	1.16	1.91	23.41	76.30	577.42	33.52	
	⑨	0.00	0.04	0.53	3.35	3.06	15.02	1.97	1.98	
	平均的な残高構成(%)	①	.	19.5	25.4	29.6	29.1	23.1	8.6	21.8
		②	.	23.2	8.7	6.3	2.2	3.1	1.4	4.4
		③	.	19.8	37.1	40.0	39.3	28.0	35.3	36.1
		④	.	22.0	13.0	9.1	7.0	7.1	2.3	7.2
		⑤	.	14.5	11.8	9.0	5.4	13.9	7.9	9.0
⑥		.	0.5	1.3	3.8	9.6	7.4	8.4	6.4	
⑦		.	0.4	1.7	1.0	3.7	9.8	13.6	6.4	
⑧		.	0.0	0.7	0.4	3.2	6.4	22.5	8.2	
⑨		.	0.1	0.3	0.8	0.4	1.3	0.1	0.5	

注) ①郵便局・定額貯金, ②郵便局・通常貯金, ③銀行等・定期預金, ④銀行等・普通預金, ⑤生命保険等・掛金累計, ⑥貸付信託, ⑦債券, ⑧株式, ⑨社内預金等。

上の階層では低下の幅が比較的大きい。また年収九〇万円以上一〇〇万円未満の階層では七〇歳代前半の数字が例外的に高く、年収一〇〇万円以上一八〇万円未満の階層では六〇歳代後半の数字が例外的に低い。⁽⁸⁾

④消費支出の内訳

表3-12は消費支出の内訳を消費支出階級別に集計したものである。単身者全体として消費支出の三〇%強を食費にあてている。ついで「その他」が二二・一%でつづき、光熱・水道九・四%、住居八・七%、教養・娯楽八・四%、交通・通信七・九%、被服・履物五・三%の順になっている。⁽⁹⁾消費水準が上昇するにつれて支出ウェイトが下がるのは食費と光熱・水道費のみである。

7 貯蓄残高とその内訳

最後に貯蓄残高の分布を調べることにする。

①年金階級別の貯蓄分布

表3-13は年収階級別の平均貯蓄残高を女子について示したものである。サンプル数が少ないので、慎重に読

む必要があるものの、加齢とともに平均貯蓄残高は減少していくようである。ただし年収九〇万円以上一二〇万円未満で六〇歳代後半に位置する者の平均残高は例外的に高い。なお資料はクロスセクション・データであって、コーホート・データではない(念のため)。

表3-14は年金受給額階級別にみた貯蓄残高の分布である。年金額が高くなれば貯蓄残高も高いと一応いえないわけではないが、貯蓄分布のばらつきはきわめて大きい。受給している年金がほぼ同額であっても貯蓄残高は人によってかなり違うと考えるべきであろう。

なお男女別に貯蓄残高を調べると、平均額は男子五三〇万円、女子三八八万円となっている。中央値はそれぞれ三二二万円、二〇〇万円である。分布のばらつきぐあいは女子の方が大きい(変動係数の値は男子一三二%、女子一五四%)。女子だけでみると、就業している者の方が就業していない者より貯蓄残高は高い。

◎貯蓄残高の内訳

貯蓄残高階級別にみた貯蓄ストックの分布は表3-15の最上段に示されている。その下の数字は貯蓄項目ごと

の保有率と平均残高である。最下段は平均的な残高構成を表わしている。貯蓄項目の中では全体として定期性預貯金のウェイトが比較的大きい。ただし単身世帯においても通貨性預貯金の残高が比較的高く、保有者のみに着目すると、平均で郵便局に四二万円、銀行等に四八万円が定額・定期とならずに預けられている。なお、この表には利子・配当の金額も参考のために掲げておいた。⁽¹⁰⁾

(7) 平均貯蓄残高を年間収入階級別にみると、どの階級においても夫婦ともに就業していない世帯の方が世帯主就労世帯より貯蓄ストックは大きい。ただし前者は後者とくらべると低所得者が相対的に多いので、グループ全体の平均貯蓄残高は大小が逆転している。

(8) 耐久消費財購入分を年間調整すれば、例外的数字はなくなるのかもしれない。

(9) 高齢夫婦世帯と比較すると、単身者の方が住居費のウェイトは若干高い(持家比率が低いため)。

(10) 英米における年金受給者の生活実態については、坂口正之「最近のイギリス老齢世帯の生計費と年金」『週刊社会保障』昭和六十二年四月二十七日号、および *Social Security Bulletin*, June, 1986 号と同誌 *Annual Statistical Supplement*, 1984-85 などをご参照されたい。

(一) 橋大学助教授

(二) 橋大学助手